

# 資料を活用し社会的な見方・考え方を育む社会科指導の工夫 ～アプローチシートと意見交流を通して～

## 研究のキーワード

社会的な見方・考え方  
アプローチシート

資料を活用する力  
学習課題づくり



那覇市立城西小学校教諭

新里 和也

## 目次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究目標	61
III	研究仮説	62
	1 基本仮説	
	2 作業仮説	
IV	研究構想図	62
V	研究内容	63
	1 資料を活用する力について	
	(1) 資料を活用する力とは	
	(2) 資料を活用する力の育成	
	2 社会的な見方・考え方	
	(1) 社会的な見方・考え方とは	
	(2) 社会的な見方・考え方の育成	
	(3) 社会的な見方・考え方につながる学習課題づくり	
	3 アプローチシートについて	
	4 意見交流について	
VI	授業実践（第3学年）	65
	1 小単元名 「昔の道具とくらし」	
	2 小単元目標	
	3 小単元の評価規準	
	4 指導と評価の計画(全11時間)	
	5 本時の指導(1/11時)	
	(1) 目標	
	(2) 授業仮説	
	(3) 展開	
VII	結果と考察	69
	1 作業仮説(1)の検証	
	(1) 結果 (2) 考察	
	2 作業仮説(2)の検証	
	(1) 結果 (2) 考察	
VIII	研究の成果と今後の課題	72
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

## 資料を活用し社会的な見方・考え方を育む社会科指導の工夫 ～アプローチシートと意見交流を通して～

那覇市立城西小学校教諭 新里 和也

### I テーマ設定の理由

現代社会は、知識基盤社会と言われ幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断が一層重要視されている。さらに、グローバル化により言語情報の量的拡大と質的变化が進み、言語力育成に対する社会的な要請も高まっている。また、PISA 調査で求められている文章や資料の分析・解釈・評価・論述などの能力も今日の社会において広く必要とされているものである。国立教育政策研究所が行った特定の課題に関する調査(社会)においては、問題解決的な学習を通して多様な資料の中から問題を発見・把握する力や課題の解決策を表現しその理由を説明することに課題が見られた。

小学校学習指導要領社会科第3学年及び第4学年の目標(3)には、「地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする」と示されている。また、学習指導要領解説社会編で資料活用の技能として第3学年及び第4学年においては、「資料から必要な情報を読み取る」「資料に表されている事柄の全体的な傾向をとらえる」「必要な資料を収集する」などが例示されている。以上のことから、社会科導入期である第3学年で資料を活用する力を身につけさせることは、今後の社会科の見方・考え方につながる大切な資質となる。

これまでの授業をふり返ると、問題解決的な学習の過程で資料を読み取る活動は行ってきたが、見たまま感じたままの直感的な読み取りになり、資料を多面的に見る力や、社会的な見方・考え方につながる学習課題を設定するまでには至らなかった。それは、資料活用の具体的な指導や手だてが十分でなかったためだと考えられる。また、社会的事象について考えたことを他者に伝え合う活動では、社会的な見方や考え方が十分に育まれていなかったため互いの思考の深まりが弱かった。

これらの課題を解決するために、資料から多くの情報や詳しく読み取る力をつけさせるとともに、得た情報をもとに自分の考えを他者に伝え合う過程でいろいろな考えや意見があることに気づかせる指導方法の工夫・改善をする必要があると考える。

そこで、本研究では、資料から情報を読み取るための視点が書かれたアプローチシートを活用し、資料を読み取る力を育て、意見交流を通して学習課題を設定し、社会的な見方・考え方のできる児童を育てたいと考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

資料を活用し社会的な見方・考え方を育む社会科指導を工夫し実践する。

### Ⅲ 研究仮説

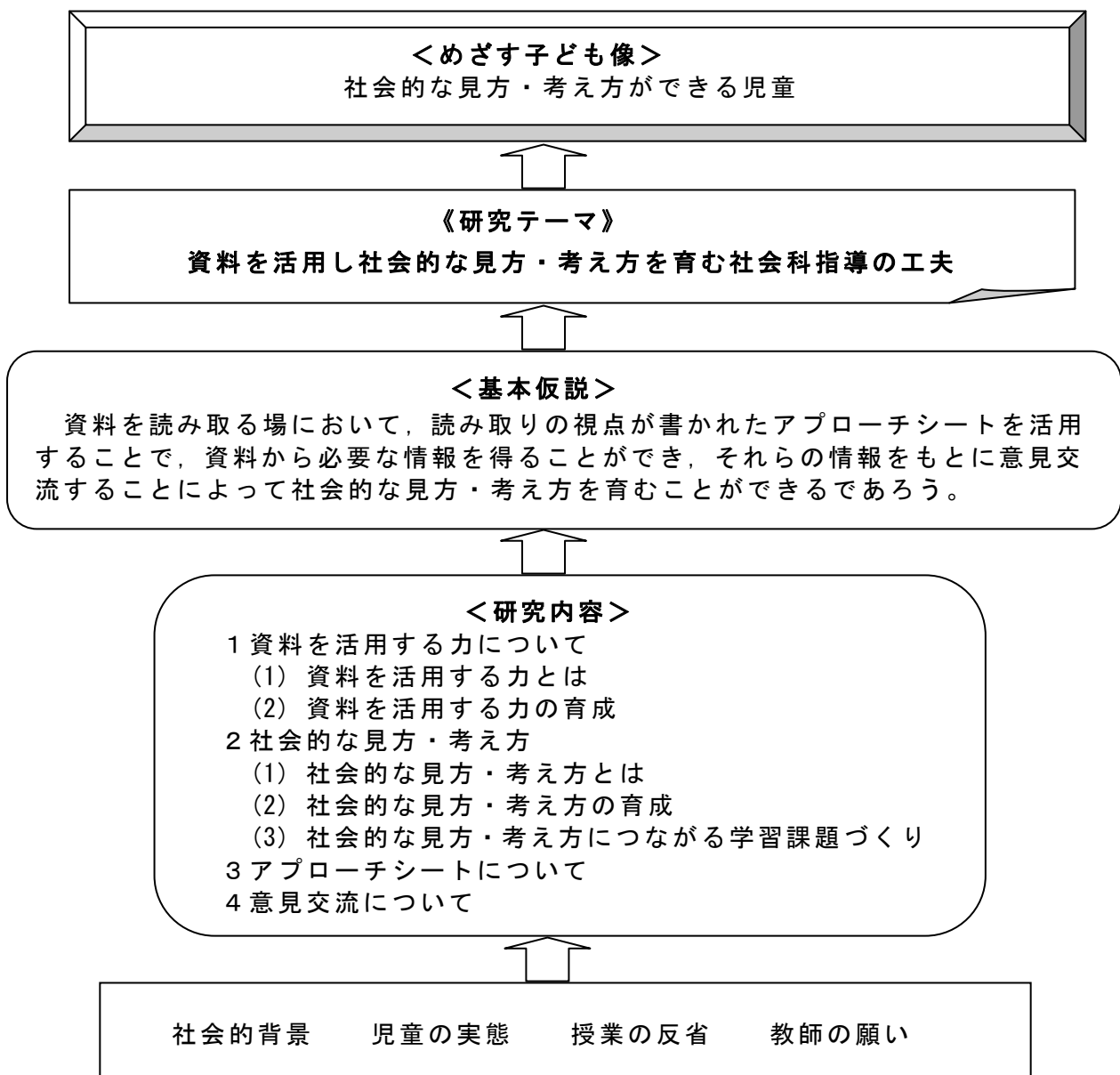
#### 1 基本仮説

資料を読み取る場において、読み取りの視点が書かれたアプローチシートを活用することで、資料から必要な情報を得ることができ、それらの情報をもとに意見交流することによって社会的な見方・考え方を育むことができるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) 資料を読み取る場において、アプローチシートを使い資料を詳しく読みとることで、必要な情報を得ることができるであろう。
- (2) アプローチシートで読み取った情報をもとに、意見交流をしながら学習課題を立てることで、社会的な見方や考え方を育むことができるであろう。

### Ⅳ 研究構想図



## V 研究内容

### 1 資料を活用する力について

#### (1) 資料を活用する力とは

学習指導要領の各学年の目標(3)「能力に関する目標」で第3学年及び第4学年では具体的資料、第5学年と第6学年では基礎的資料を効果的に活用すると示されている(図1)。第3学年では問題解決的な学習において自分たちの住んでいる身近な地域や市の様子について観察や調査・見学の活動を中心に学習する。その活動に伴い写真やイラスト、地図(絵地図を含む)、パンフレット、実物など社会的事象をより具体的に捉えることのできる資料を活用しながら学習が進められる。

澤井陽介(2011)は、『「活用」とは、文字通り「活かして効果のあるように使うこと」であり「資料活用」とは問題解決のために資料を活かすことである。』と述べている。このようなことから、資料を活用する力とは、問題解決的な学習の過程で扱う多種多様な資料を、課題を解決するために効果的に扱う力であると考えられる。

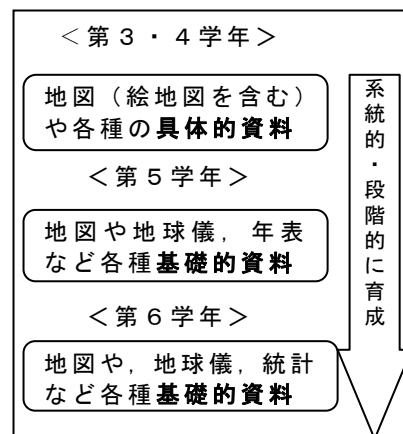


図1 能力に関する目標

#### (2) 資料を活用する力の育成

林雅樹(2009)は、資料を活用する力を6つに分類し(図2)、「A～Dは資料から様々な読み取りを行う資料の読解であり、資料活用の基礎を成すもの」と述べている。

横田香織(2011)は、資料から必要な情報を読み取らせるためには「児童に具体的な視点をもたせて資料に触れさせることが必要であり、さらに視点に基づいて資料からできるだけたくさんの情報をつかませることが重要である」と述べている。

また、資料に表されている事柄の全体的な傾向を捉えることについて、絵地図の読み取りを例(表1)にあげ、「点の見方から、線の見方、さらに面の見方へと広げていくことが必要」としている。

これらのことから資料を活用する力を育成するためには、資料を具体的な視点をもたせて読み取らせ多面的な読み取りができる力を育成することが必要であると考えられる。

点として見る(～が東にある。)
線としてみる(～は西から東へ通っている。)
面としてみる(学校の東には～が広がっている。)

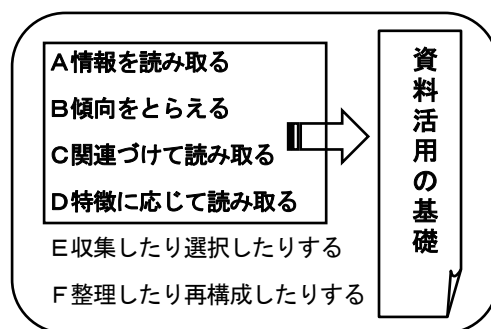


図2 資料活用能力の分類

### 2 社会的な見方・考え方

#### (1) 社会的な見方・考え方とは

小学校学習指導要領解説社会編の改善の基本方針に「社会的事象に関心をもって多面的・多角的に考察し公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を一層重視する方向で改善を図る。」と示された。

本研究では、社会的な見方・考え方を、資料を多面的に見ることができ、社会的事象を様々な角度から考察する力と捉え研究を深めていく。

## (2) 社会的な見方・考え方の育成

社会的な見方・考え方の重要性として、松山誠一郎（2009）は、「事象を多面的に捉え多角的に考察する社会的な見方・考え方の育成のために、資料と資料を比較・関連させながら考察するような学習が一層重要となる」と述べている。また、久山将弘（2007）は、「児童生徒が様々な資料を活用しながら、主体的に学習課題を解決していく過程で育成されていくものである。」と述べている。

さらに、思考し、判断し、表現する活動と社会的な見方・考え方との関連性として松山は、「社会的な見方・考え方は、思考し、判断し、表現する活動を通してこそ獲得できる能力である」と述べている。これらのことから社会的な見方・考え方の育成には問題解決的な学習の過程で資料を活用する力や、意見交流により考えを深め表現することのできる力が重要であると考え（図3）。

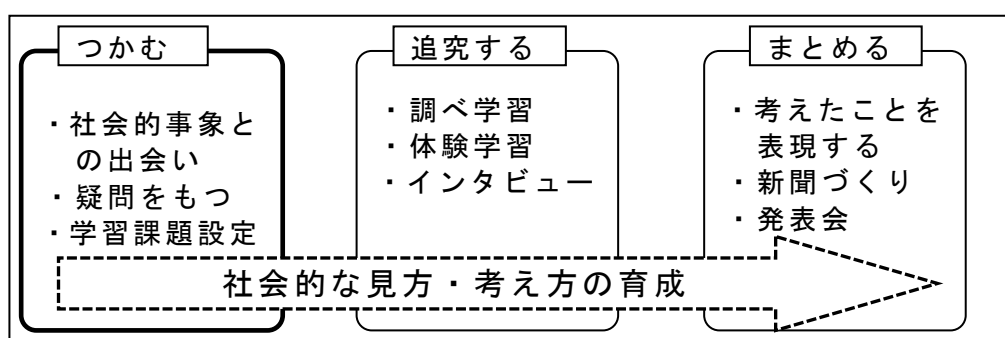


図3 社会的な見方・考え方の育成

## (3) 社会的な見方・考え方につながる学習課題づくり

星野成実（2010）は子どもが本気になる学習課題づくりのポイントとして「子どもの疑問を生かしたもの」「単元の目標の達成につながるもの」「学習の見通しがもてるもの」を挙げ、子どもの既存の知識や経験、情感をゆさぶり、子どもにとって解決する切実感のある学習問題をつくる必要があるとしている。

北俊夫（2004）は、学習問題の設定について「学習問題を追及し解決していくことによって、その単元の目標が子どもの中に実現されなければならない」と述べている。これらのことから、社会的な見方・考え方につながる学習課題づくりは、子どもたちが「なぜだろう」「どうしてかな」といった疑問を持ち主体的に追究していく過程で、単元の目標が達成できるような学習課題を設定することであると考える。

授業で追究する問いを「学習問題」という場合もあれば「学習課題」と表現する場合もあるが、共に学習のねらいを達成するために解決すべき問いという意味で捉え本研究では学習課題と位置づける。

### 3 アプローチシートについて

社会的な見方・考え方を育むためには資料を多面的に読み取る力が必要である。そのために、読み取りの視点が示されたアプローチシートを作成し活用させる。アプローチシートは、視点に沿って読み取ることで、詳しく読み取ったり、多くのことに気づいたりし、資料を多面的に読み取ることができるシートである。本小単元では、第1時の導入で活用し、単元に興味・関心を持たせる。また、課題設定の場

においては意見交流の視点が示されたアプローチシートを作成し，社会的な見方・考え方につながる学習課題が設定できるように工夫した（図4）。

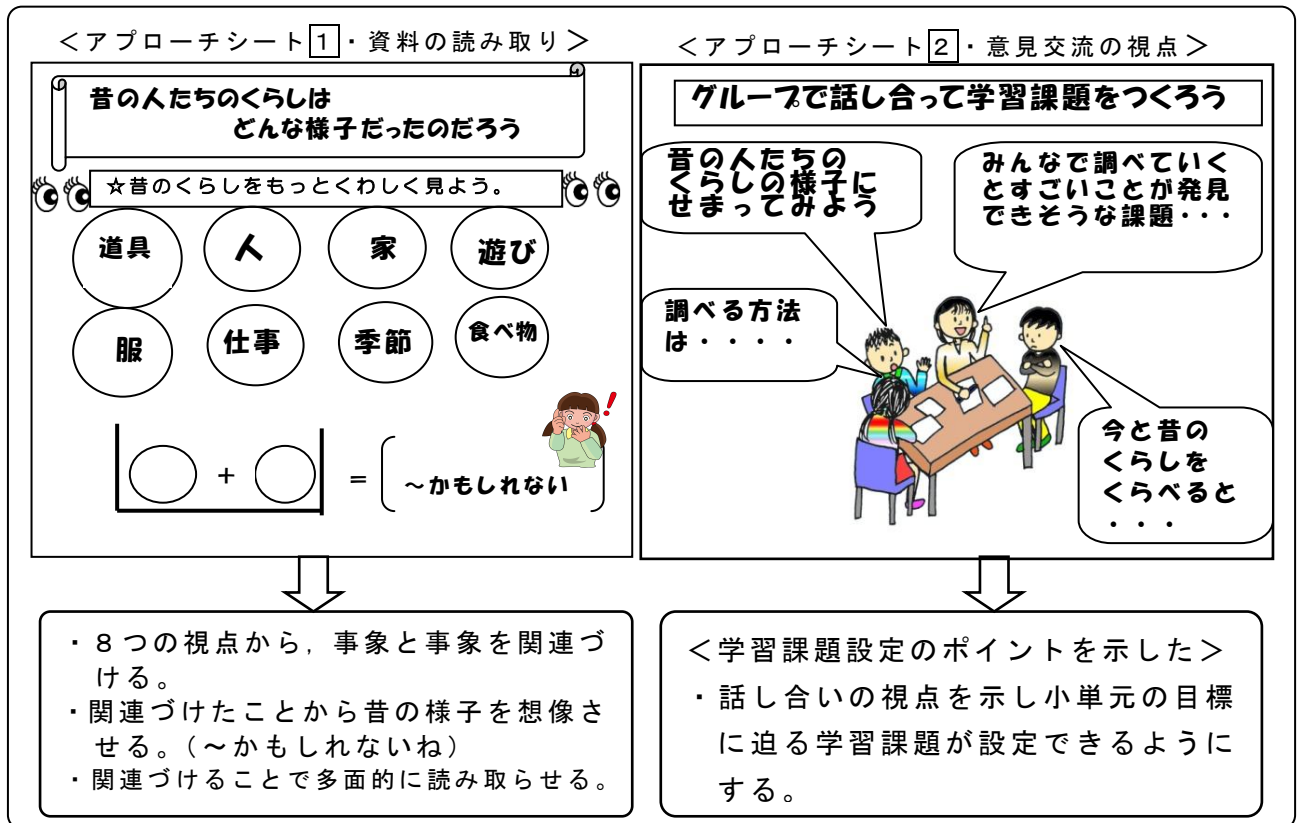


図4 アプローチシートの視点

#### 4 意見交流について

安野功(2013)は「それぞれの子どもが各自の考えを相手に伝え，類似点や共通点，相違点などを確認し合い，より望ましい考えを吟味・検討し合い，互いの考えを繋ぎ合わせて新たな考えを創出するなど，小学校の社会科らしい言語活動による協働の学び合いを構想し，展開すること。」と述べている。

本研究では互いの考えを質問したり，答えたりする活動を繰り返しながら類似点や共通点，相違点などを確認し合い，協働の学び合いをすることで思考を深め，社会的な見方・考え方につながる学習課題の設定を目指す。意見交流の場は，自分の考えが述べやすく質問したり答えたりしやすい少人数のグループで行い，各自が資料から読み取ったことを他者に分かりやすく伝えるために付箋紙を使用する。付箋紙は，気づいたことや考えたことを自分の言葉で短く相手に分かりやすく書くことができ，さらに動かすことができるので，自分の考えと他者の考えを比較することで多様な視点での気づきにつながる。

### VI 授業実践（第3学年）

#### 1 小単元名「昔の道具とくらし」

#### 2 小単元の目標

古くから残る暮らしにかかわる道具とそれらを使っていたころの暮らしの様子について調べ，それらを伝承してきた人々の思いや願い，人々の生活の変化について考える。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

・地域の人々の生活の変化に関心を持ち、意欲的に調べ、地域社会のよりよい発展を考えようとする事ができる。

【社会的な思考・判断・表現】

・地域の人々の生活の変化について予想し学習課題を考え、人々の生活の今昔の違いや変化、人々の生活の知恵を考え適切に表現することができる。

【観察・資料活用の技能】

・観点に基づいて見学したり地域の人々から聞き取り調査をして人々の生活の変化について必要な情報を集め読み取り、年表やノートにまとめることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

・古くから残る暮らしに関わる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子を理解することができる。地域の人々の生活の変化や向上が人々の願い、努力や先人の働き、苦心によるものであることを理解することができる。

3 小単元の評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
①生活の変化に関心をもち、意欲的に調べている。 ②地域の人々の時代ごとの生活に関心をもち、地域社会のよりよい発展を考えようとしている。	①人々の生活の変化について予想し、学習問題や学習計画を考え表現している。 ②今と昔の人々の生活の違いや変化、人々の生活の知恵を考え適切に表現している。	①観点に基づいて観察したり、地域の人から話を聞いたり、写真などの資料を活用したりして人々の生活の変化について必要な情報を集め読み取っている。 ②調べたことを新聞や年表にまとめている。	①古くから残る暮らしに関わる道具、それらを使っていた頃の暮らしの様子を理解している。 ②地域の人々の生活の変化や向上が人々の願いや努力、先人の働きや苦心によるものであることを理解している。

4 指導と評価の計画（全11時間）

時	主な学習活動・内容	評価の観点				評価規準及び評価方法
		関	思	技	知	
1 本 時	○古い道具やそれを使っていたころの人々の暮らしについて考え、学習課題を立てることができる。		○			【思・判・表①】 ・昔の人々の暮らしの様子について意見交流をし学習課題を立てることができる。 (ノート、発言)
2 ・ 3 ・ 4	○博物館で昔の道具を観察したり使ったりして道具の名前や使われていた時期、気づいたことや疑問などを絵カードにまとめる。	○		○		【関・意・態①】 ・博物館の見学を通して地域の人々の生活の変化に関心を持ち意欲的に調べている。 (観察、ノート)  【技①】 ・昔の道具について、観察やインタビューをしたり、実際に使ってみたりして調べたことを、道具が使われていた時期を分類しながら絵カードにまとめている。(絵カード)
5 ・ 6	○せんたく板を使って実際に洗う活動を通して、昔の暮らしの様子を実感するとともに、道具の移り変わりについて関心を持ち、調べることができるようにする。			○	○	【知・理①】 ・道具の移り変わりの様子とそれに伴う人々の暮らしの変化をとらえている。(ノート、発言) 【技①】 ・昔の道具を実際に使って気づいたことや分かったことを整理して絵カードにまとめている。(絵カード)



7	○ 祖父母の世代の人々に子どもの頃の暮らしの様子を尋ね、道具や暮らしがどのように変化してきたか考える。		○		【思・判・表②】 ・祖父母の子どもの頃と今の暮らしを比較し、人々の暮らしの変化について考え、ノートにまとめている。(ノート、絵カード)
8	○ 父母の世代の人々に子どもの頃の暮らしの様子を尋ね、道具や暮らしがどのように変化してきたか考える。		○		【思・判・表②】 ・父母の子どもの頃と今の暮らしを比較し、人々の暮らしの変化について考え、ノートにまとめている。(ノート、絵カード)
9 ・ 10	○ これまでに作った絵カードを活用し、道具の進歩と暮らしや社会の様子の変化を関連づけてとらえ、新聞や年表にまとめる。			○	【技②】 ・新聞や年表をまとめたり、活用したりして時間の経緯に沿った道具や暮らしの移り変わりの様子を整理している。(年表) 【知・理②】 ・道具が改良され、便利な暮らしになってきたこと確かめ、その変化の背景には人々の願いや努力があったことをとらえている。(ノート)
11	○ これまで調べてきたことをスピーチ形式で発表し合い、昔の道具や暮らしにみられる人々の知恵・工夫に気づく。	○			【関・意・態②】 ・地域の人々の時代ごとの生活に地域社会のよりよい発展を考えようとしている。 (発言・ノート)

## 5 本時の指導 (1/11 時)


### (1) 目標

古い道具やそれを使っていたころの人々の暮らしについて考え、学習課題を立てることができる。

### (2) 授業仮説

- ① イラストに描かれた昔の様子を読み取る場において、アプローチシートの視点に沿って事象をつなげて読み取ることで、昔の人々の暮らしの様子について想像することができるであろう。
- ② アプローチシートで読み取った情報をもとに、互いに質問したり答えたりする活動を繰り返しながら学習課題を立てることで、社会的な見方・考え方を育むことができるであろう。

### (3) 展開

	○ 主な学習活動 ・ 予想される児童の反応	□ 留意点 ☆ 評価
導 入  3 分	<p><b>活動 1. 教科書 p117 のイラストから分かったこと、気づいたことを発表する。</b></p> <p>◎ 本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>昔の人たちのくらしはどんな様子だったのだろう。</p> </div> <p><b>活動 2. 教科書 p117 のイラストを読み取り、わかったこと、気づいたことをノートに箇条書きにする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 井戸がある。</li> <li>・ 剣玉がある。</li> <li>・ お父さんが薪割りをしている。</li> <li>・ おじいさんが野菜をもっている。</li> <li>・ 冷蔵庫がない。</li> <li>・ お母さんがご飯を炊いている。</li> <li>・ 家が木でできている。</li> <li>・ かまがある。</li> <li>・ 壺がたくさんある。</li> <li>・ 教科書がある。</li> </ul>	<p>□ イラストを見せ 2, 3 人に発表させ、読み取りが苦手な児童に対するヒントにさせる。</p> <p>□ 教科書を開き、目を閉じさせカウントダウンをしてイラストに集中させる。</p>
		

<p>展 開 37 分</p>	<p><b>活動 3. アプローチシートを通して昔の暮らしをくわしく読み取る。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>授業仮説①</b> イラストに描かれた昔の様子を読み取る場において、アプローチシートの視点に沿って事象をつなげて読み取ることで、昔の人々の暮らしの様子について想像することができるであろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井戸の水で洗濯をしていたのかもしれないね。</li> <li>・お父さんが割っている薪はご飯を炊くのに使われていたのかもしれないね。</li> <li>・剣玉やお手玉があるのでそれであそんでいたのかもしれないね。</li> <li>・井戸から取った水でお湯をわかしていたのかもしれないね。</li> <li>・昔は畑があるはずだから野菜は自分で作ったものをたべていたのかもしれないね。</li> <li>・おばあちゃんは寒いから火をおこしていたのかもしれないね。</li> <li>・家が木でできているから寒いかもしれないね。</li> </ul> <p><b>活動 4. 自分の知りたいことを決め、付箋紙に書く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・井戸水は何に使っていたのかな？</li> <li>・ご飯を炊くのにまきはどれくらい使うのかな？</li> <li>・昔はどんな遊びをしていたのかな？</li> <li>・壺みたいな物がたくさんあるけどなにに使っていたのかな？</li> <li>・昔の家はなぜ木が多く使われていたのかな？</li> <li>・どんな食べ物を食べていたのかな？</li> </ul> <p><b>活動 5. グループで学習課題を立てる。</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>授業仮説②</b> アプローチシートで読み取った情報をもとに、互いに質問したり答えたりする活動を繰り返しながら学習課題を立てることで、社会的な見方・考え方を育むことができるであろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題と、決めた理由を書く。</li> <li>・調べる方法と、なぜそれにしたのか理由も書く。</li> </ul> <div style="text-align: center;">  </div> <p><b>活動 6. 授業の感想を書く</b></p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>&lt;努力を要する児童への支援&gt; 話し合いで「なるほど」と思ったところがなかったか、自分の知りたいことと、グループの学習課題を比べながら考えさせる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ アプローチシートの視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵の中の事象と事象を関連づけ考えさせる。(季節, 食べ物, 道具, 人, 家, 遊び, 服, 仕事)</li> <li>・活動2で書いたことと関係づけて考えさせる。</li> <li>・文末は「～かもしれないね」で書かせることで昔のくらしが想像できるようにさせる。</li> </ul> </li> <li>□ 資料の一部を拡大表示して読み取りをしやすくする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>&lt;困っている児童への手だて&gt; ・事象と事象を指で押さえ何か関連することはないか聞いてみる。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> </li> <li>□ 自分の知りたいこと(学習課題)を2～3個付箋紙に書き画用紙にはりつけさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動3で書いた「～かもしれないね」を参考にして知りたいことを決めさせる。</li> </ul> </li> <li>□ 意見交流の視点(アプローチシート②) <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで調べていったらすごいことが発見できそうなもの。</li> <li>・答えが見つかりにくいものを選ぶ。</li> <li>・調べることができそうなものを選ぶ。(調べる方法)</li> <li>・昔の暮らしの様子と今の暮らしの様子を比べて考えさせる。</li> </ul> </li> <li>☆【思・判・表①】(ノート) <ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;おおむね満足&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合っただけで決めたときの良さをが書けている。</li> </ul> </li> <li>&lt;十分満足&gt; <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで話し合っただけで決めたとき、他者の考えの良さに気づいたことが書いている。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
	<p>ま と め 5 分</p>	<p><b>活動 7. 感想を発表する。</b></p>

## VII 結果と考察

### 1 作業仮説(1)の検証

資料を読み取る場において、アプローチシートを使い資料を詳しく読みとることで、必要な情報を得ることができるであろう。

#### (1) 結果

イラストに描かれた昔の様子について詳しく読み取らせるために、第1時の指導でアプローチシートに書かれた8つの視点に沿って読み取りを行った。アプローチシートとイラスト資料を交互に見ながら読み取る児童の姿と実際に読み取った内容が図5である。


<p>&lt;活動2 アプローチシートなし&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お手玉がある。</li> <li>・井戸がある</li> <li>・おじいちゃんが野菜を持っている。</li> <li>・かまどがある。</li> <li>・電気がない。</li> <li>・おばあちゃんが火をおこしている。</li> <li>・お父さんが木を切っている</li> <li>・男の子が鉛筆を削っている</li> <li>・お母さんがご飯を炊いている。</li> <li>・家が木でできている。</li> <li>・魚がぶらさがっている。</li> <li>・教科書がある。</li> <li>・ガラスがない</li> </ul>		<p>&lt;活動3 アプローチシート活用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女の子は<u>お手玉</u>で遊んでいたのかもしれない。</li> <li>・<u>お姉ちゃん</u>が井戸で水をくんで<u>おばあちゃん</u>がわかしていたのかもしれない。</li> <li>・<u>おじいちゃん</u>の取った野菜でお母さんが料理をしているのかもしれない。</li> <li>・<u>電気がない</u>のでお手玉とか動物と遊んでいたのだろう。</li> <li>・もうすぐ冬だから<u>長袖と長ズボン</u>をきているのだろう。</li> <li>・<u>井戸</u>から取った水で<u>ご飯</u>を作っているのかもしれない。</li> <li>・<u>野菜</u>などを<u>たわし</u>で洗っていたと思う。</li> <li>・教科書で勉強していたのかもしれない。</li> </ul>
--	--	--

図5 資料読み取りの比較

また、図6はアンケート「アプローチシートは資料をくわしく読みとるときに役に立ちましたか。」の結果である。「役に立った」と「少し役に立った」を合わせると87%の児童が役に立ったと答えている。また、アプローチシートに関する授業後の感想(5グループ)が表2である。

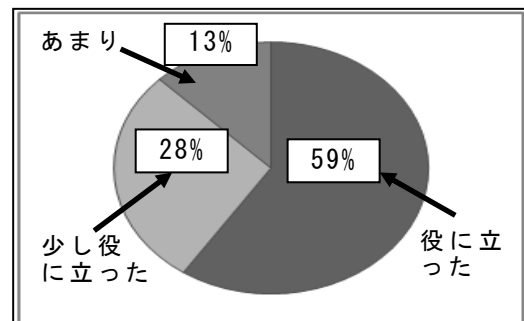


図6 アプローチシートは役だったか(32名)

表2 授業後の感想

A児	アプローチシートの○と○をつないでそうぞうがいっぱいつくれた。
B児	教科書を見ただけよりアプローチシートがあったらたくさんみつげられた。
D児	アプローチシートで昔の細かいところがよみとれた。
E児	○にジャンルが書かれていてわかりやすかった。アプローチシートでいろいろそうぞうしたら楽しかった。

#### (2) 考察

図5から分かるように、アプローチシートなしの読み取りでは「～がある」「～している」など点として資料を読みとっていたが、アプローチシートを活用すると事象と事象を関連づけて読み取ることができている。それは、アプローチシートに8つの視点を示し事象と事象を関連づけて想像し、「～かもしれないね」と予想の形で書かせることで詳しい読み取りにつながったと考える。

また、図6からはアプローチシートの活用で、視点に沿って読み取ることができ、

事象と事象を関連づけ多面的に見ることができたことがうかがえる。

表2の授業後の感想では、A児からは「事象と事象を関連づけて考えている」、B児からは「量的なこと」、D児からは「資料を細部まで読み取れた」、E児からは「8つの視点を生かしたこと」、「想像して考えたこと」などが読み取れる。これらのことから、アプローチシートを活用することで資料の多面的な読み取りができ、必要な情報を得ることができたので仮説(1)は有効であったと考える。

## 2 作業仮説(2)の検証

アプローチシートで読み取った情報をもとに、意見交流をしながら学習課題を立てることで、社会的な見方や考え方を育むことができるであろう。

### (1) 結果

図7は5グループの本時の活動である。グループの学習課題決め(活動5)では、読み取った情報(活動3)と自分の知りたいこと(活動4)をもとにアプローチシート②の視点に沿ってグループの学習課題を話し合った。





児童	活動4 知りたいこと	活動5 グループの課題決め	活動6 授業後の感想
A児 	・昔の教科書やがんばんりノートはどんなのをつかっていたのか。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>&lt;アプローチシート②&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の人たちのくらしの様子にせまってみよう</li> <li>・みんなで調べていくとすごいことが発見できそうな課題</li> <li>・今と昔のくらしをくらべると</li> <li>・調べる方法は</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>E: おばあちゃんが使っているやかんの上にある魚って何のためにあるのかな? D: これっていらないでしょ A: 本物の魚だよ E: にせものだよ B: 守り神って言うたよ E: ①調べてみる価値あるね</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>A: 昔の教科書も調べたいな B: 字や学校の様子調べたいな D: ②今と違うかもしれない E: がんばんりノートはあったのかな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>学習課題 「いろりの使い方」 「昔はどんな教科書だったのか」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>意見交流の様子 </p> </div>	・③昔の知らないことを話し合いをして良かったなと思いました。くわしく見ていたら昔のようすがたくさんわかった。
B児 	・地しんや火事が起きたらどんなふうにしてたんだろう。家はどんなふうにしてたんだろう。		・④私が考えていない教科書やノート、上にある魚みたいなものがいいんじゃないとなり、ああ、そういうのも調べてみたいなと思いました。自分の考えと比べると全然ちがうことを書いていてすごいなと思いました。いろいろ聞いたり考えたりして楽しかったです。またやりたいです。
D児 	昔はスーパーとかいろいろなお店があったのかな。		・自分はこう思ったよとかいろいろ自分たちの考えをみんなに伝えることができたのでよかったです。⑤話し合いをしてこれだよとかあれだよとかまとまったのでよかったです。とてもいいべんきょうになったのでまたグループで話し合いをしたいです。
E児 	やかんの上になぜ魚みているのかな。		・昔の道具は今の道具ととてつもなくちがいました。⑥ともだちは自分とちがった書き方でともだちの考えがわかりました。

図7 課題設定の場面



5グループでは、E児とA児の疑問をもとに互いに質問したり答えたりしながら話し合いができた。いろりの上にある魚の疑問に対し、本物か偽物か疑問を広げ、さらに、B児の既存の知識「守り神って言ってたよ。」と全員で意見を述べ合うことができた。その際に、付箋紙に書いた自分の知りたいことを画用紙上で動かして仲間分けしたり、調べたい順序を変えたりしている様子も見られた。

また、E児の①「調べてみる価値あるね。」と、D児の②「今と違うかもしれない。」のように、アプローチシート②の視点を活かした話し合いになり、「いろりの使い方」と「昔はどんな教科書だったのか」に学習課題が設定できた。

さらに、授業後の感想（活動6）の下線③から⑥で、グループの話し合いによって学習課題を設定した良さに気づくことができた。他のグループも同じような手順で学習課題を設定することができた（図8）。

1グループ 昔の人の ふくそう調べ	2グループ 昔の道具の 使い方	3グループ 電気がないところ の生活	4グループ 昔の道具調べ
5グループ ・いろりの使い方 ・昔はどんな教科書だったか	6グループ ・昔の井戸のひみつ ・昔のお金のひみつ	7グループ 昔の温かい食べ物 のつくり方	8グループ 電気がない 暮らしの様子

図8 各グループの学習課題

図9は5グループが小単元の終末で新聞にまとめた一部である。⑦のようにいろりはものを温めるためだけでなく、たくあんを干すことにも使われていること、また、⑧のようにいろり以外の火を使う道具について書いていた。

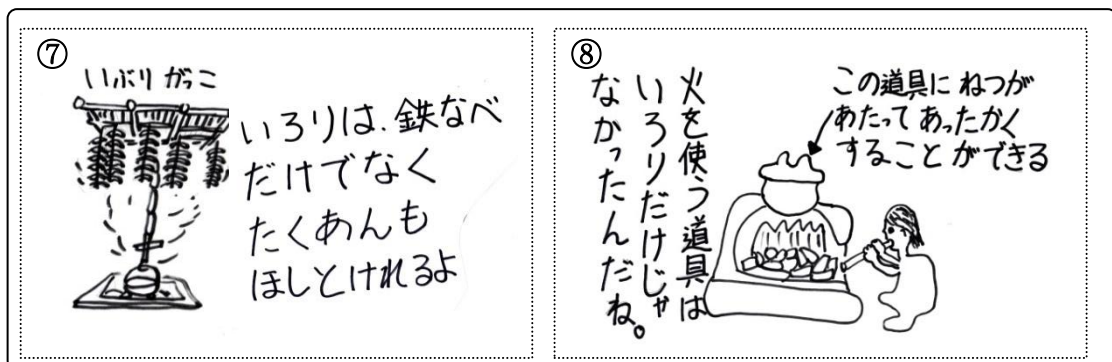


図9 新聞の一部

表3は小単元終了後の児童の感想例である。問題解決的な学習の過程で、調べ学習、インタビュー、体験学習から、昔の人々の暮らしの様子について理解し、考えを広げたことが見て取れる。

表3 小単元終了後の感想例

調べ学習	・昔の人は足ぶみマシンとか炭アイロンやせんたく板を工夫してすごいと思いました。 <u>昔の道具はふべんだけじゃなくてちゃんと昔の人のちえがはれつするほどつまっています。</u>
2グループ	

インタビュー	・おばあちゃんにインタビューをしてごはんや食器あらいの時、水をくんで家に入れるのでとてもたいへんだなということがわかりました。 <u>昔の人たちはいろいろ工夫や努力をしてきたから、だから道具やくらしがべんりになってきた。わたしたちもべんりな生活をもっとよくしていきたいです。</u>
6グループ	
体験学習	・わたしは、せんたく板を使って、あらうのが大変ということがわかりました。 <u>せんたく板がぎざぎざしているからよごれがたくさん落ちるんだなとおもいました。わたしたちも昔の人みたいにせんたくきなどべんりなものをつくりたいです。</u>
2グループ B児	

## (2) 考察

5グループは、昔のくらしの様子を詳しく読み取っているため全員が発言できたと考える。その中で、①「調べてみる価値あるね」と②「今と違うかもしれない」から、アプローチシート[2]の視点を生かし多様な考えを焦点化して意見交流したことがうかがえる。また、授業後の感想（活動6）からは、付箋紙を活用し互いの考えを整理しながら話し合うことで多様な考えに気づき、折り合いをつけ学習課題を設定できたと考える。

図9の⑦は、「いろいろの使い方」と学習課題を設定したので、疑問であった魚のことだけでなく、いろいろの多様な使い方も調べてまとめることができた。さらに、⑧から、いろいろが火を使うことから他の火を使う道具にも関心が広がったことがうかがえる。

また、表3の下線からは、問題解決的な学習の過程で昔の人々の暮らしの様子について様々な角度から考察できる力がついたことがうかがえる。

以上のことから、読み取った情報をもとに意見交流を通して社会的な見方・考え方につながる学習課題を設定し追究していくことで、社会的な見方・考え方が育まれてきたと考える。よって仮説(2)は有効であったと考える。

## Ⅷ 研究の成果と今後の課題

### 1 成果

- (1) アプローチシートの視点に沿って事象と事象を関連づけ読み取ることで、資料を多面的に捉える力が育まれつつある。
- (2) 資料から読み取った情報をもとに意見交流することで考えが広がり、社会的な見方・考え方につながる学習課題が設定でき、課題解決していくことで社会的な見方・考え方が育ちつつある。

### 2 課題

- (1) 写真や絵地図、実物など他の資料でも学習課題を設定し、課題を解決していく過程で社会的な見方・考え方を育むことができるような指導の工夫
- (2) 課題解決に必要な資料収集の仕方と取捨選択の指導の工夫

#### 《主な参考文献》

『新社会科 調べ考え表現する』	北俊夫 澤井陽介	明治図書	2011
『社会科 授業の基礎基本』	星野成美	小学館	2010
『小学校学習指導要領解説 社会編』	文部科学省		2008
『社会科 学習問題づくりのアイデア』	北俊夫	明治図書	2004